**説教20240331ヨハネ20：1-18「天上のイエス様」**

**主イエスの御復活おめでとうございます。この喜びを世界中の方々と味わって参りたいと思います。**

**私たちは三日前の金曜日に受難日を過ごし、主イエスが十字架に架けられて死なれた時のことを覚えました。この日は、受難の苦しみが最高潮に達するときであり、世界中で、日が沈んだような悲しみを嘆くときであります。**

**しかし、ここで告白しますが、私自身は、既に三日前の受難日にあって、喜びが最高潮に達していました。十字架と言うのは、悲しみと喜びが入り混じる処ですので、そう言うこともあり得るかと思いますが、問題はその後です。この地上と言うのは、全てが変化をし移り変わっていくところですから、私の心も、喜びが最高潮のまま留まることはありません。昨日の喜びは、明日の悲しみとなります。そして今日このイースターを迎えた私の心は、、、ほどほどの喜びでした。皆様からの励ましを期待します。**

**十字架は悲しみと喜びが入り混じる処です。そのことは十字架の根元にまで来て、主イエスと交わるときに実感できます。ヨハネ福音書には、その十字架体験がありのままに記されています。**

**ヨハネによる福音書 19章 25節以下をお読みします。**

**イエスの十字架のそばには、その母と母の姉妹、クロパの妻マリアとマグダラのマリアとが立っていた。イエスは、母とそのそばにいる愛する弟子とを見て、母に、「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です」と言われた。それから弟子に言われた。「見なさい。あなたの母です。」そのときから、この弟子はイエスの母を自分の家に引き取った。**

**この様に、イエス様と４人の女性たちと使徒ヨハネとは、十字架の根元で、イエス様の声を直接聞きながら、イエス様と会話をしたのでした。この場所は、神の愛で満たされています。使徒ヨハネは、愛する弟子とか、イエスの愛しておられた弟子とか呼ばれていますが、それはイエス様の愛に応答して、イエス様を愛した弟子だったという事です。そしてこの４人の女性たちも、イエス様を愛し続けた女性たちであり、そのようなイエス様を愛する愛が彼ら彼女らを十字架の根元にまで導いたのでした。**

**愛には恐れがない。完全な愛は恐れを締め出します、と聖書に書いてある通りです。**

**そしてこの十字架の根元において、喜びが最高潮になる出来事が起こりました。それはイエス様によって母マリアと使徒ヨハネとの縁組が行われたという出来事でした。この時、マリアとヨハネは、人を愛する愛を与えられ、その隣人愛は永遠に存続するものとなったのでした。**

**愛をもって人に接する時、不完全な私たち人間には、必ず恐れが伴います。愛は、全てのことを見抜いてしまいます。この十字架の根元でもそうでした。同じ時に十字架の根元に居た、ピラトや祭司長たちはどうでしょうか、兵士たちはどうでしょうか。彼らは、イエス様を見ないで、つまらないことでマウントを取り合い、空しいゲームに興じているばかりでした。彼らに、神の愛が分け与えられることはなかったのです。一方、十字架の根元にまで付いてきたこの４人の女性たちと使徒ヨハネには、神の愛が分け与えられたのでした。**

**ヨハネ福音書が説くイエス様は、初めのページから既に、天上にいるイエス様であり、他の福音書でみられるような恐れやいら立ちが感じられません。イエス様は最初から神の愛を説き、何事にも動じないで淡々として居られます。十字架に上げられてもイエス様は苦しむもだえることはなかったように記されています。それは、もうすでに十字架に上げられたイエス様に神の愛が実現していたからです。そしてヨハネ福音書には、その神の愛に応答する人たちの姿が具体的に記されています。それは他の福音書には見られないことです。**

**例えば、今採り上げた、４人の女性たちのことは、マタイ福音書においては、十字架につけられたイエス様を遠くから見守っていた、と記されています。さらに、マルコ福音書ではイエスの復活を知らされた婦人たちが墓を出て逃げ去り、震え上がり、正気を失い、そのことをだれにも何も言わないで、ただ恐ろしかった、と記されています。**

**聖書に記されている事と言うのは正直です。この地上では誰一人として完全な神の愛を実現できる人はいません。ですから、イエス様の御復活のニュースを聞いて、この婦人たちの様にただ恐ろしかったというのも、理解できる心境だと思います。**

**しかし、ヨハネ福音書は、神の愛が実現した天上のイエス様を中心にして記されていますので、イエス様の復活を知らされた後の人々の応答もマルコ福音書とは違うものとなっています。**

**ヨハネ福音書 20章 1節**

**週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓に行った。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。**

**このマグダラのマリアは、イエス様の十字架の根元に居た４人の女性たちの内の一人です。このマリアは、地上での男女の愛に傷つき葛藤しつつも、主イエスの愛を信じて、十字架の根元にまで付いてきた女性でありました。**

**今日の聖書箇所には、墓を出て逃げ去り、震え上がり、正気を失い、そのことをだれにも何も言わないで、ただ恐ろしかった女性の姿ではなく、イエス様と実際に愛し合った一人の女性の姿が具体的に記されています。そしてその姿を記せたのは、これも又、イエス様と愛し合った使徒ヨハネにしか出来なかったことだったのでした。**

**この地上と言うのは、全てが変化をし移り変わっていくところです。マリアの心境も大きく移り変わります。**

 **13節**

**天使たちが、「婦人よ、なぜ泣いているのか」と言うと、マリアは言った。「わたしの主が取り去られました。どこに置かれているのか、わたしには分かりません。」**

**私の主、私だけの主イエスを誰かが、どこかに奪い去った、、、こんな独占的な愛を求めるマリアの愛がここには記されていますが、この様な独占的な愛も、天上のイエス様にあっては、必ずしも否定されることではありません。あのダビデ王も詩編においてこう歌っています。**

**主よ、あなただけは／わたしを遠く離れないでください。わたしの力の神よ／今すぐにわたしを助けてください。**

**14節**

**こう言いながら後ろを振り向くと、イエスの立っておられるのが見えた。しかし、それがイエスだとは分からなかった。**

**何という事でしょう、あんなにも愛していたイエス様がそこに立っておられるのに、それがイエス様だとは分からないとは。彼女はイエス様を自分のものにしたい余りに、他者としてのイエス様を見失っていまっていたのでしょう。**

**15節16節**

**イエスは言われた。「婦人よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか。」マリアは、園丁だと思って言った。「あなたがあの方を運び去ったのでしたら、どこに置いたのか教えてください。わたしが、あの方を引き取ります。」イエスが、「マリア」と言われると、彼女は振り向いて、ヘブライ語で、「ラボニ」と言った。**

**この愛の応答によって、マリアは愛するイエス様を再び見出し、彼にすがりつこうとしました。**

**17節**

**イエスは言われた。「わたしにすがりつくのはよしなさい。まだ父のもとへ上っていないのだから。わたしの兄弟たちのところへ行って、こう言いなさい。『わたしの父であり、あなたがたの父である方、また、わたしの神であり、あなたがたの神である方のところへわたしは上る』と。」**

**「わたしにすがりつくのはよしなさい。」このイエス様の御言葉は、聖書を読む人たちが黙想し続けている意味深い御言葉です。今日は、「天上のイエス様」という説教題に基づいて私なりにこのことを語って参りたいと思います。**

**「わたしにすがりつくのはよしなさい。まだ父のもとへっていないのだから。」**

**この様に、天上のイエス様は、地上に生きる人であるマリアに寄り添いながら声を掛けられました。**

**まもなく、マリアもイエス様に引き寄せられて天上に昇ることになります。**

**そうしてマリアは天上でイエス様と一つとされて、そこで神の愛が完成するのです。**

**それだから、イエス様はこの時、マリアに向かって「まだ父のもとへ上(のぼ)っていないのだから。」と言われたのでした。イエス様は時をかけることが出来るお方ですから、もうご自身は天に昇っていながら、時と場合によっては相手を思いやって「まだ父のもとへ上(のぼ)っていない」ともおっしゃるのです。**

**この様なイエス様の声掛けによって、まだ地上にあるマリアの、イエス様への愛も形を整え、益々深まっていったに違いありません。**

**それでは、今まだ地上を歩んでいる私たちはどうでしょうか。私たちは天上のイエス様と触れ合うことが出来るのでしょうか。**

**イエス様は、まだ地上にある私たちの為に、様々な場面を用意しておかれました。そうして私たちが、イエス様の復活のニュースを聞いても、決して恐れによって逃げ去らないように、イエス様は天上から神の愛によって私たちをつなぎ止めていて下さいます。**

**その神の愛が、この地上で目に見えて現れているのが、聖餐のパンとぶどう液です。**

**十字架の根元にまで付いてきた４人の女性と、使徒ヨハネは、そこで、神の永遠の愛を分け与えられると同時に、この朽ちる身体が切り裂かれ血を流して滅びることも知らされたことでしょう。**

**わたしたちも、聖餐式で十字架の主イエスの死を知らされ、そこでパンとぶどう液とを味わい、天上のイエス様と一つとされたいと、慕い願っています。その時に、私たちは確かに天上のイエス様と触れ合うことが出来ます。**

**そしてその時、私たちが「わたしにすがりつきなさい。もう父のもとへ上(のぼ)っているのだから。」というイエス様の言葉を親しく聴くことが出来れば、まだ地上にあっても、私たちは益々、神の愛を深められ、喜びに満たされて地上生涯を全うしていく事が出来る事でしょう。**

**祈り**

**父なる神よ**

**御子イエスは、御復活され、罪と死の支配に打ち勝たれ、全ての造られたものを新しくして下さいました。私たちも日々、復活の御子イエスにあずかり、日々新しい命を恵んで下さい。**

**あなたと共にある愛に留まり、この地上にあっても、又、召されて天上に向かう道にあっても、最後まで喜びで満たして下さい。**